

令和元年6月17日現在

機関番号：17102
 研究種目：若手研究(A)
 研究期間：2015～2018
 課題番号：15H05376
 研究課題名（和文）Site Divination Practices in Premodern East Asia

 研究課題名（英文）Site Divination Practices in Premodern East Asia

 研究代表者
 VANGOETHM ELLEN (Van Goethem, Ellen)

 九州大学・人文科学研究院・准教授

 研究者番号：20513196
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,800,000円

研究成果の概要（和文）：この研究プロジェクトは、敷地選定（風水、堪輿、四神相応とも呼ばれる）に関する東アジアの前近代の信仰と慣行に焦点を当ててきた。敷地選定に関連する慣行が歴史的に、ならびに空間的な広がりとともに、「どのように変化し」、そうした概念が東アジアへの伝播にあたって、「どのように他の宗教伝統の一部となったのか」を調査するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一次資料のテキスト分析と二次資料の精読を組み合わせることで、本研究課題の結果は、(1)東アジア全般、ならびに特に日本における敷地選定の様々な形態の理解、(2)多様な種類の敷地選定の識別（墓、民家、都市、軍営など）、(3)地理的（中国から朝鮮半島および日本へ）および時間的な（約紀元前3000年から西暦800年まで）理論・実践上の知識伝播、という上記3つである。

研究成果の概要（英文）：This is an investigation into the wide variety of site divination practices in premodern China, Korea, and Japan. The project resulted in a better understanding of the transmission process and allowed for a differentiation between practices. The transmission was elucidated by comparing written sources and establishing commonalities and differences in language use, landscape features, and solutions offered in case such features were lacking. It became clear that practices not only varied over time and between regions, but that they were adapted to the local environment or to final usage. It also became clear that practices deemed by some to be unique to Japan, actually find their origins in China.

At the start, the project focused on site divination for capital cities, but then shifted towards private residences. As a result, the research also showed that "correspondence to the four deities" (四神相応) should be linked to private residences rather than to capital cities in ancient Japan.

研究分野：日本古代史・思想史

キーワード：四神相応 風水 日本 中国 朝鮮半島

1. 研究開始当初の背景

古代から中華文化圏の人々は墓を作り、都市を築き、家を建てるにあたって理想的な吉相の敷地を追い求めてきた。吉相な敷地の決定に関する実践と信仰は一般に、風水、堪輿、四神相応などとしても知られる敷地選定という幅広い名称の下、分類される。

敷地選定の実践は古代中国に起源を持つ。こうした実践についての文献上の最古の証拠は四世紀の『古本葬經内篇』に登場する。そこでは、すでに敷地を守護する神獣についての言及がある。こうした神獣たちは習慣的に四つの方角の一つと重ね合わされてきた。すなわち、南を守護する朱雀、北を守護する玄武、東を守護する青龍、西を守護する白虎である。しかし、それぞれの神獣は元来、相対方向（つまり、それぞれ、前、後、左、右）と関連していたこと、さらに、神獣と方角の関連付けは羅針盤の発明まで待たなくてはならなかったことを勘案すべきである。ある場所が吉であると見なされるためには、敷地を囲む四つの方向のそれぞれの地形が対応する神獣と一致しなくてはならないのである。

しかし、最古の文献資料は、それぞれの方向で求められる地形上の特徴が正確にどのようなものであるかについては規定していない。結果、時代とともにさまざまな敷地選定の実践が、中華文化圏の各地域で発展してきたのである。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトは、前近代東アジアにおける多様な敷地選定の実践を調査することを目的とした。具体的に、本プロジェクトが当初目指していたのは以下についてである。

- (1) 敷地選定に関する理論的ならびに実践的な知識の伝搬について、時間的（西暦紀元前 3000 年から西暦 800 年頃まで）および地理的（中国、朝鮮半島、日本）な分析
- (2) さまざまな種類の敷地選定の区分（墓地、民家、都市、屯営など）

以上の目的をプロジェクト期間の最初の三年間で達成した後、敷地選定に関する概念がどのようにして日本のその他の宗教的伝統や文化的実践の一部となったのかを調査した。

3. 研究の方法

年代的にも地理的にも本研究プロジェクトは中国から始まる。それゆえ、2015年度には、古代中国の敷地選定全般、とりわけ、都市の建設に先立つ敷地の選択過程について、一次資料の吟味から開始した。その目的遂行のため、電子版四庫全書データベースを閲覧し、『古本葬經内篇』、敦煌の莫高窟で発見された写本、¹ 十二世紀の『圖解校正地理新書』、そして、十五世紀の『居家必用事類全集』を分析した。

2016年度になると、前近代の朝鮮半島における敷地選定実践の調査へと焦点を移した。この目的のため、近現代朝鮮の風水に関する高名な専門家であるHong-key Yoon教授とInshil Choe Yoon博士に連絡をとった。両氏はともにニュージーランドのオークランド大学に在籍し、この主題について精力的に発表を行っている。² また、十八世紀初頭の農業書である『山林經濟』の詳しい研究にも着手した。同書では、理想的な吉相の敷地条件についての詳細な説明が記録されている。他方、敷地選定について論じる日本の一次資料の分析にも着手した。とりわけ、宮都・首都および政権の本拠地の建設に先立つ敷地選定についての資料、あるいは民家の建設についての資料を重要視した。そうした資料には『続日本紀』、『平家物語』、『作庭記』、『簠簋内伝』が含まれる。2017年度には、日本における敷地選定の実践へと完全に焦点を移した。林屋辰三郎ならびに水野杏紀の研究に依拠し、³ 日本で「四神相応」として知られている敷地選定の具体的な形態についての研究を続けた。当初の研究目的（上述 (1) および (2)）を達成後、二つの関連するサブプロジェクトを昇華させた。

特に明治維新以降の、神社における風水思想および象徴体系の融合

現代日本の建築における風水思想の影響

2018年度の大半を特別研究期間としてカリフォルニア大学サンタバーバラ校で過ごし、上記二点のサブプロジェクトについての研究を同校で継続した。十九世紀末に建設された官幣大社にこれほどまでに多くの神獣への準拠が見られる理由を説明すべく、平安神宮建設についての詳細研究を行った。また、重要な神事のいくつかに神獣が存在することを説明するために、太宰府天満宮の祝詞および御田植祭を分析対象とした。第二のサブプロジェクトについては、1990年代および2000年代初頭に京都で活躍した三名の建築家（原公司、磯崎新、梅林克）に焦点を当て、自身の建築に風水に関係する概念を取り入れることについての彼らのスタンスを分析した。

¹ 金身佳 『敦煌写本宅経葬書校注』(2007年)

² Hong-key Yoon, *Geomantic Relationships between Culture and Nature in Korea* (1976年); Hong-key Yoon, *The Culture of Feng Shui in Korea* (2006年); Inshil Choe Yoon, "An Examination of Geomancy (P'ungsu) as Employed in T'aengniji" (*International Review of Korean Studies* 6:1, 2009年)

³ 林屋辰三郎 『作庭記』(1973年)と 水野杏紀 「四神相応と植物-『造営宅経』と『作庭記』を中心として-」(『人間社会学研究集録3』、2008年)

4. 研究成果

敷地選定に関する知識がどのように伝播したかについて確かな理解を得た上、敷地選定の実践は時代および地域によって異なるだけでなく、地域環境あるいは敷地の最終用途に適応していたことも明らかとなった。

四世紀の『古本葬經内篇』といった一次資料に基づき、神獣は山や川、つまり、自然の地形要素のみへの対応が意図されていると演繹することも可能である。しかし、莫高窟で発見された写本により、七世紀とはいかなくとも、少なくとも九世紀にはすでに、ある敷地が吉であると見なされるには自然なものだけでなく、人工の地形上の特徴（例：道路）が要求される、変則的な敷地選定実践が出現していたことが明らかになっている。

加えて、本研究は、敷地選定の仕様が敷地の用途次第であることを示した。例えば、民家が建てられた際には、屯営の建設とは異なる基準が適用された。具体的に、民家の東は川となるのだが、屯営に使用される敷地の場合は、東に森がなくてはならなかった。

重要なことは、本研究が日本で「四神相応」と呼ばれている実践にも光を当てたことである。「四神相応」という用語は日本に固有のものかもしれないが、その実践は古代中国にまで遡ることができる。さらに、一般的には、平安京などの宮都建立に結び付けられているが、この実践は本来、民家に用いられていた。平安京建立から数世紀を経て初めて、「四神相応」という用語が日本の宮都に結び付けられるようになったのである。この用語は時代錯誤的に使用されているため、四神相応思想と関連している具体的な実践は、七世紀後半および八世紀に用いられた、敷地を選択する過程の合理化以後のものとして解釈されねばならない。

サブプロジェクト

平安神宮建立での場当たりの計画過程と多くの紆余曲折は、この複合施設が当初はモニュメントとして構想されていたことを示している。建立の終わり頃になってようやく、この複合施設を神社とする提案が現実的なものとなったのである。このことは、平安神宮の建設がかくも独特なものであることを示している。完成間際になって追加された大極殿／拝殿の背後の構造のみが神社建築と一般的に関連付けられる様式で建てられているのである。対照的に、同神社の最も接近しやすい（モニュメントの役割を担う）部分は、神獣への準拠を不可欠とする古代政権の施設に典型的な中国式で建設されたのである。

サブプロジェクト

京都の現代日本建築における風水思想の影響についての研究は、三名の建築家による風水への関与の程度が、ほぼ全面的な没入から、より表層的な関与、ならびに原則の個別適用まで、それぞれ異なることを示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2件)

1. [Van Goethem Ellen](#), 'Heian Jingū: Monument or Shinto Shrine?', *Journal of Religion in Japan* 7:1 (2018年)、1-26頁 (査読有り)
2. [Van Goethem Ellen](#), 'Of Trees and Beasts: Site Selection in Premodern East Asia,' *Journal of Asian Humanities at Kyushu University* 1 (2016年)、1-7頁 (査読有り)

〔学会発表〕(計 12件)

1. [Van Goethem Ellen](#), 'The Others Within: Architecture, Activism, and Advertising at Heian Jingū,' 国際ワークショップ "Thank God We're Not Like Them": The Global Dimensions of Religious Othering, 米国 カリフォルニア大学ロサンゼルス校、2019年2月15日
2. [Van Goethem Ellen](#), 'Commemoration and Deification: The Creation of Heian Jingū,' 米国 カリフォルニア大学ロサンゼルス校、2019年2月11日
3. [Van Goethem Ellen](#), 'Monument, Shrine, Power Spot: Heian Jingū's Multi-Layered Signification,' 米国 コロンビア大学、2018年11月8日
4. [Van Goethem Ellen](#), ワークショップ "Cosmos, Ethos, Episteme," イギリス エディンバラ大学、2018年6月25日
5. [Van Goethem Ellen](#), 'Heian Jingū: A "Traditional" Shrine in a "Foreign" Guise,' 15回ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS) 国際会議、ポルトガル リスボン、2017年8月31日
6. [Van Goethem Ellen](#), 'Guardians of Kyoto: Shinto Shrines as Manifestations of the Directional Deities,' アジア研究協会 (AAS) 国際学会、カナダ トロント、2017年3月17日
7. [Van Goethem Ellen](#), 'From Scale Model to Shrine: The Creation of Heian Jingū,' 米国 カリフォルニア大学ロサンゼルス校、2017年3月2日
8. [Van Goethem Ellen](#), 'Animated City: Life Force, Guardians, and Contemporary Architecture in Kyoto,' 米国 カリフォルニア大学サンタバーバラ校、2017年2月25日

9. Van Goethem Ellen, 'Heian Jingū: Civic Shrine, Exhibition Pavilion, Imperial Shrine?', 国際ワークショップ "The Creation of a National Culture in Japan's Modern Period: Architecture, Art, and Place," 九州大学、2016年12月14日
10. Van Goethem Ellen, 'Of Trees and Beasts: Site Selection in Premodern East Asia,' The Third Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2015)、香川大学、2015年10月25日
11. Van Goethem Ellen, 'Foreign Beliefs in 'Native' Settings: Fengshui Elements in Shinto Shrines,' International Convention of Asia Scholars (ICAS) 9、オーストラリア アデレード、2015年7月7日
12. Van Goethem Ellen, 'Fengshui Protection: The Four Mythical Animals and Shinto Shrines,' アジア伝統科学国際ワークショップ2015 古今の宇宙観、京都大学、2015年6月19日

〔図書〕(計 1件)

1. Van Goethem Ellen, 第5章 'Animated City: Life Force, Guardians, and Contemporary Architecture in Kyoto,' Fabio Rambelli、編、*Spirits and Animism in Contemporary Japan: The Invisible Empire* (Bloomsbury, 2019年、査読有り)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年：
 国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年：
 国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。